



アプライアンスへの接続

アプライアンスをラックに取り付けたら、次の手順に従ってケーブルを接続し、電源を投入して、接続を確認します。



(注) 各トピックの接続図には、プライベートネットワークに接続された管理コンピュータを使用したデフォルト設定が示されています。実際の展開は、基本論理ネットワーク接続、ポート、アドレッシング、および設定要件によって異なります。

- [Cisco S195 アプライアンス \(1 ページ\)](#)
- [Cisco S395 アプライアンス \(3 ページ\)](#)
- [Cisco S695 アプライアンス \(4 ページ\)](#)
- [Cisco S695F アプライアンス \(5 ページ\)](#)

Cisco S195 アプライアンス

ステップ 1 アプライアンスの背面パネルにある電源に、ストレート電源ケーブルの一方の端を差し込みます。

(注) 必要に応じて、冗長性を確保するために別途電源ケーブルを注文し、アプライアンスの背面パネルの 2 番目の電源に接続します。

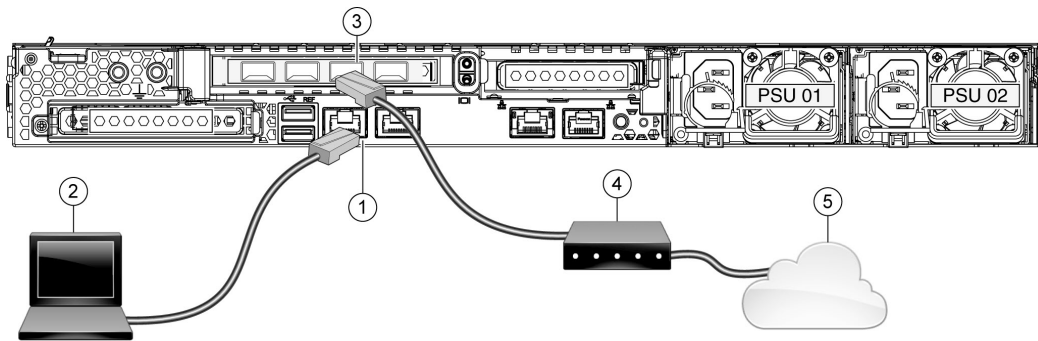
ステップ 2 もう一方の端を電源コンセントに差し込みます。

ステップ 3 アプライアンスの背面パネルにある適切なポートに、イーサネット ケーブルを差し込みます。

- プロキシポートには、P1 と P2 というラベルが付いています。
 - P1 のみが有効 : P1 のみが有効の場合、着信トラフィックと発信トラフィックの両方に対応するネットワークに P1 を接続します。
 - P1 および P2 が有効 : P1 と P2 の両方が有効である場合、P1 を内部ネットワーク、P2 をインターネットに接続する必要があります。
- トラフィック モニター ポートには、T1 と T2 というラベルが付いています。

- シンプレックス タップ：ポート T1 および T2。1本のケーブルでインターネットに宛てたすべてのパケットに対応し（T1）、もう1本のケーブルでインターネットから着信するすべてのパケットに対応します（T2）。
- デュプレックス タップ：ポート T1。1本のケーブルですべての着信および発信トラフィックに対応します。

ステップ 4 システムボックスに同梱されているイーサネットケーブルを使用して、ラップトップを管理ポート（M1）に接続します。



1	管理ポート (M1) - (192.168.42.42)	2	管理コンピュータ (192.68.42.43)
3	トラフィック モニタ ポート 1 (T1)	4	WAN モデム
5	インターネット		

ステップ 5 アプライアンスの前面パネルにある電源スイッチを押して、アプライアンスに電源を投入します。システムの電源を投入するたびに、システムが初期化するまで10分待機する必要があります。アプライアンスの電源が投入されると、前面パネルの緑色のライトが点灯して、アプライアンスが作動していることを示します。

注意 初期化の完了前に電源をオフにってしまうと、その後アプライアンスが動作状態になることはなく、そのアプライアンスはシスコに返却する必要があります。

(注) アプライアンスに電源を接続した直後に電源を投入すると、アプライアンスの電源がオンになり、ファンが回転しLEDがオンになります。30～60秒以内にファンが停止し、すべてのLEDがオフになります。31秒後にアプライアンスの電源がオンになります。この動作は、システムファームウェアとコントローラが同期できるようにするための設計によるものです。

ステップ 6 設定の詳細については、『[AsyncOS for Cisco Web Security Appliances User Guide](#)』を参照してください。

Cisco S395 アプライアンス

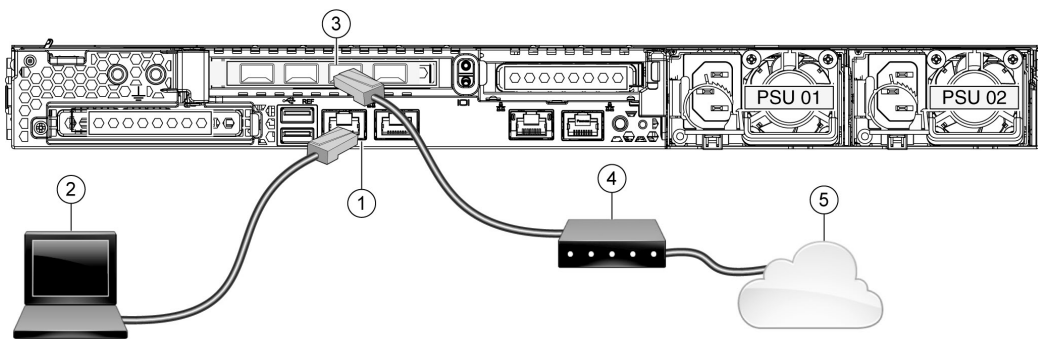
ステップ 1 アプライアンスの背面パネルにある冗長電源に、各ストレート電源ケーブルの一方の端を差し込みます。

ステップ 2 もう一方の端を電源コンセントに差し込みます。

ステップ 3 アプライアンスの背面パネルにある適切なポートに、イーサネット ケーブルを差し込みます。

- プロキシポートには、P1 と P2 というラベルが付いています。
 - P1 のみが有効：P1 のみが有効の場合、着信トラフィックと発信トラフィックの両方に対応するネットワークに P1 を接続します。
 - P1 および P2 が有効：P1 と P2 の両方が有効である場合、P1 を内部ネットワーク、P2 をインターネットに接続する必要があります。
- トラフィック モニター ポートには、T1 と T2 というラベルが付いています。
 - シンプレックス タップ：ポート T1 および T2。1 本のケーブルでインターネットに宛てたすべてのパケットに対応し (T1)、もう 1 本のケーブルでインターネットから着信するすべてのパケットに対応します (T2)。
 - デュプレックス タップ：ポート T1。1 本のケーブルですべての着信および発信トラフィックに対応します。

ステップ 4 システムボックスに同梱されているイーサネットケーブルを使用して、ラップトップを管理ポートに接続します。S シリーズ アプライアンスでは、M1 管理ポートのみを使用します。



1	管理ポート (M1) - (192.168.42.42)	2	管理コンピュータ (192.168.42.43)
3	トラフィック モニター ポート 1 (T1)	4	WAN モデム
5	インターネット		

ステップ 5 アプライアンスの前面パネルにある電源スイッチを押して、アプライアンスに電源を投入します。システムの電源を投入するたびに、システムが初期化するまで 10 分待機する必要があります。アプライアンスの

電源が投入されると、前面パネルの緑色のライトが点灯して、アプライアンスが作動していることを示します。

注意 初期化の完了前に電源をオフにしてしまうと、その後アプライアンスが動作状態になることはなく、そのアプライアンスはシスコに返却する必要があります。

(注) アプライアンスに電源を接続した直後に電源を投入すると、アプライアンスの電源がオンになり、ファンが回転し LED がオンになります。30～60秒以内にファンが停止し、すべての LED がオフになります。31秒後にアプライアンスの電源がオンになります。この動作は、システムファームウェアとコントローラが同期できるようにするための設計によるものです。

ステップ 6 設定の詳細については、『[AsyncOS for Cisco Web Security Appliances User Guide](#)』を参照してください。

Cisco S695 アプライアンス

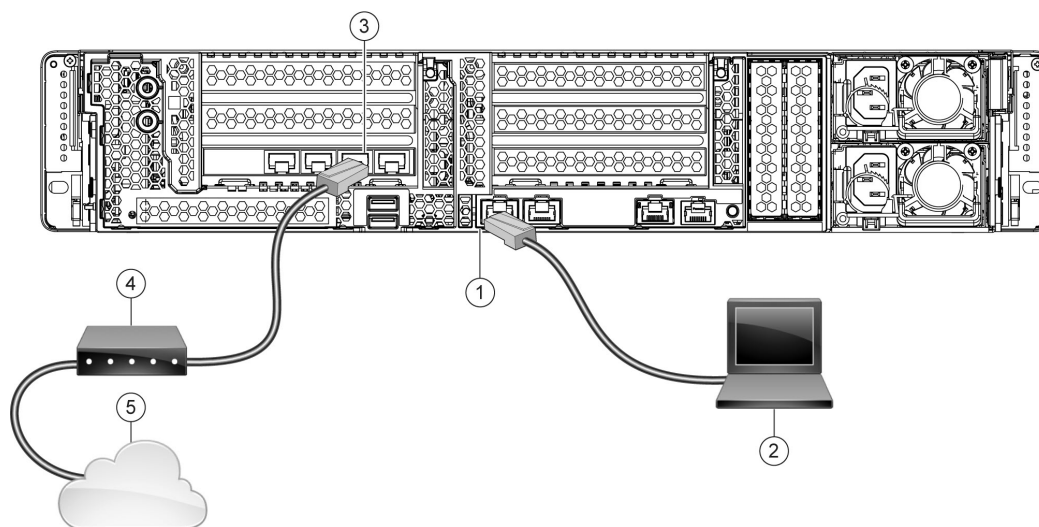
ステップ 1 アプライアンスの背面パネルにある冗長電源に、各ストレート電源ケーブルの一方の端を差し込みます。

ステップ 2 もう一方の端を電源コンセントに差し込みます。

ステップ 3 アプライアンスの背面パネルにある適切なポートに、イーサネットケーブルを差し込みます。

- プロキシポートには、P1 と P2 というラベルが付いています。
 - P1 のみが有効 : P1 のみが有効の場合、着信トラフィックと発信トラフィックの両方に対応するネットワークに P1 を接続します。
 - P1 および P2 が有効 : P1 と P2 の両方が有効である場合、P1 を内部ネットワーク、P2 をインターネットに接続する必要があります。
- トラフィック モニター ポートには、T1 と T2 というラベルが付いています。
 - シンプレックス タップ : ポート T1 および T2。1 本のケーブルでインターネットに宛てたすべてのパケットに対応し (T1)、もう 1 本のケーブルでインターネットから着信するすべてのパケットに対応します (T2)。
 - デュプレックス タップ : ポート T1。1 本のケーブルですべての着信および発信トラフィックに対応します。

ステップ 4 システムボックスに同梱されているイーサネットケーブルを使用して、ラップトップを管理ポートに接続します。



1	管理ポート (M1) - (192.168.42.42)	2	管理コンピュータ (192.168.42.43)
3	トラフィック モニタ ポート (T1)	4	WAN モデム
5	インターネット		

ステップ 5 アプライアンスの前面パネルにある電源スイッチを押して、アプライアンスに電源を投入します。システムの電源を投入するたびに、システムが初期化するまで10分待機する必要があります。アプライアンスの電源が投入されると、前面パネルの緑色のライトが点灯して、アプライアンスが作動していることを示します。

注意 システムの電源投入が完了しLEDが緑色に点灯するまで、少なくとも10分間待機してください。初期化の完了前に電源をオフにすると、その後アプライアンスが動作状態になることはなく、そのアプライアンスはシスコに返却する必要があります。

(注) アプライアンスに電源を接続した直後に電源を投入すると、アプライアンスの電源がオンになり、ファンが回転しLEDがオンになります。30～60秒以内にファンが停止し、すべてのLEDがオフになります。31秒後にアプライアンスの電源がオンになります。この動作は、システムファームウェアとコントローラが同期できるようにするための設計によるものです。

ステップ 6 設定の詳細については、『[AsyncOS for Cisco Web Security Appliances User Guide](#)』を参照してください。

Cisco S695F アプライアンス

次の図に、光ファイバポートが搭載されたCisco S695Fモデルを示します。これらの光ファイバポートは、図に示すイーサネットポート上にあり、イーサネットポートは搭載されていません。詳細については、『[Cisco x95 Series Web Security Appliances Installation and Maintenance Guide](#)』を参照してください。

上部の2つの光ファイバポートは、以下の表に記載されているイーサネットプロキシポートと同じようにプロキシポートとして使用されます。中央の2つの光ファイバポートはトラフィックポートとして使用されます。下部の2つの光ファイバポートは管理ポートとして使用されます。

ステップ1 アプライアンスの背面パネルにある冗長電源に、各ストレート電源ケーブルの一方の端を差し込みます。

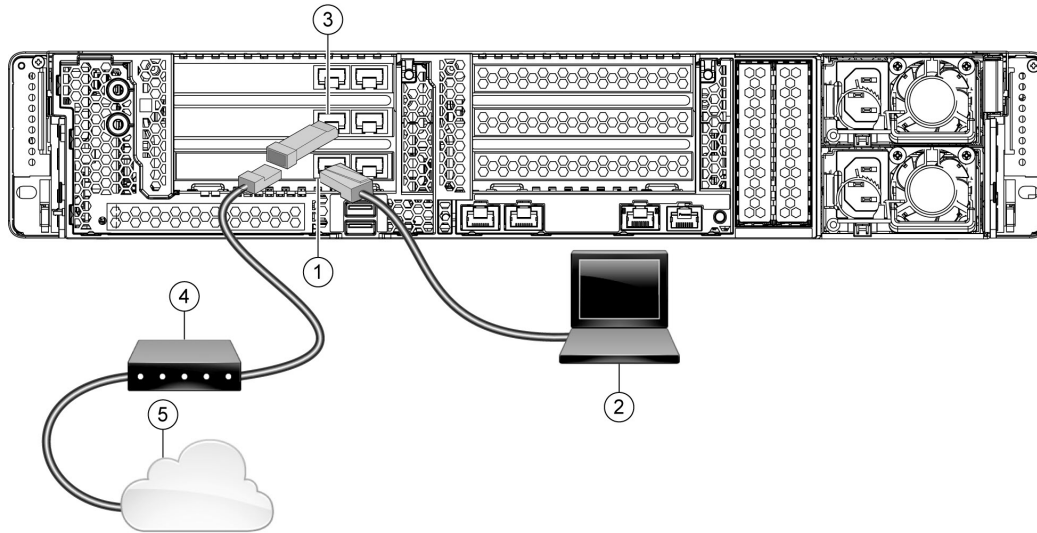
ステップ2 もう一方の端を電源コンセントに差し込みます。

ステップ3 アプライアンスの背面パネルにある適切なポートに、イーサネットケーブルを差し込みます。

- プロキシポートには、P1 と P2 というラベルが付いています。
 - P1 のみが有効 : P1 のみが有効の場合、着信トラフィックと発信トラフィックの両方に対応するネットワークに P1 を接続します。
 - P1 および P2 が有効 : P1 と P2 の両方が有効である場合、P1 を内部ネットワーク、P2 をインターネットに接続する必要があります。
- トラフィック モニター ポートには、T1 と T2 というラベルが付いています。
 - シンプレックス タップ : ポート T1 および T2。1 本のケーブルでインターネットに宛てたすべてのパケットに対応し (T1) 、もう 1 本のケーブルでインターネットから着信するすべてのパケットに対応します (T2) 。
 - デュプレックス タップ : ポート T1。1 本のケーブルですべての着信および発信トラフィックに対応します。

ステップ4 システムボックスに同梱されているイーサネットケーブルを使用して、ラップトップを管理ポートに接続します。

注意 10 ギガビットの光ファイバ インターフェイスに付属するトランシーバ モジュールのみを使用します。他のトランシーバ モジュールの使用は、光ファイバ インターフェイス カードを損傷する恐れがあります。



1	管理ポート (M1) - (192.168.42.42)	2	管理コンピュータ (192.168.42.43)
3	トラフィック モニタ ポート (T1)	4	WAN モデム
5	インターネット		

ステップ 5 アプライアンスの前面パネルにある電源スイッチを押して、アプライアンスに電源を投入します。システムの電源を投入するたびに、システムが初期化するまで10分待機する必要があります。アプライアンスの電源が投入されると、前面パネルの緑色のライトが点灯して、アプライアンスが作動していることを示します。

注意 システムの電源投入が完了しLEDが緑色に点灯するまで、少なくとも10分間待機してください。初期化の完了前に電源をオフにしてしまうと、その後アプライアンスが動作状態になることはなく、そのアプライアンスはシスコに返却する必要があります。

(注) アプライアンスに電源を接続した直後に電源を投入すると、アプライアンスの電源がオンになり、ファンが回転しLEDがオンになります。30～60秒以内にファンが停止し、すべてのLEDがオフになります。31秒後にアプライアンスの電源がオンになります。この動作は、システムファームウェアとコントローラが同期できるようにするための設計によるものです。

ステップ 6 設定の詳細については、『[AsyncOS for Cisco Web Security Appliances User Guide](#)』を参照してください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。